

第34週の発生動向 (2004/8/16~2004/8/22)

- 1 咽頭結膜熱については、先週に引き続き弘前、上十三保健所管内で**警報**が出されています。
- 2 ヘルパンギーナについては、減少傾向であるものの、青森及び弘前保健所管内の報告数が多い状態が続いており、むつ保健所管内での**警報**も依然として続いていることから、今後も注意が必要です。

第34週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱	3	0.38	6	0.60	4	0.44			2	0.33	2	0.50	17	0.40	-3
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			6	0.60	3	0.33			3	0.50	1	0.25	13	0.31	7
(62) 感染性胃腸炎	23	2.88	7	0.70	3	0.33	1	0.20	14	2.33	7	1.75	55	1.31	13
(63) 水痘	1	0.13	2	0.20	4	0.44	3	0.60	3	0.50	1	0.25	14	0.33	-19
(64) 手足口病	2	0.25	4	0.40					3	0.50			9	0.21	-3
(65) 伝染性紅斑	2	0.25	1	0.10					1	0.17			4	0.10	1
(66) 突発性発疹	2	0.25	7	0.70	6	0.67	4	0.80	4	0.67	5	1.25	28	0.67	1
(67) 百日咳			1	0.10	1	0.11							2	0.05	2
(68) 風疹					1	0.11							1	0.02	±0
(69) ヘルパンギーナ	30	3.75	30	3.00	4	0.44	4	0.80	2	0.33	33	8.25	103	2.45	-30
(70) 麻疹(成人を除く)			3	0.30									3	0.07	3
(71) 流行性耳下腺炎			3	0.30	13	1.44			1	0.17			17	0.40	-10
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					10	5.00	1	1.00					11	1.00	3

	定点数			
	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報 ■ は警報です。 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

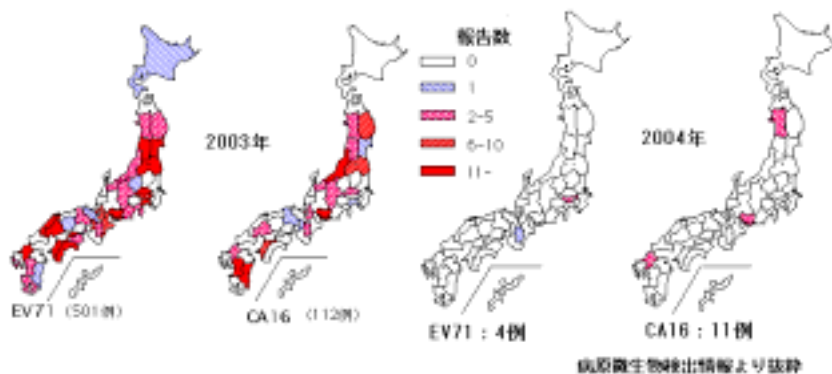
- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 五所川原保健所管内(1)、弘前保健所管内(1) 合計2人 (16年計 24人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患) 弘前保健所管内(O111) 1人 (16年計 13人)

感染症の窓

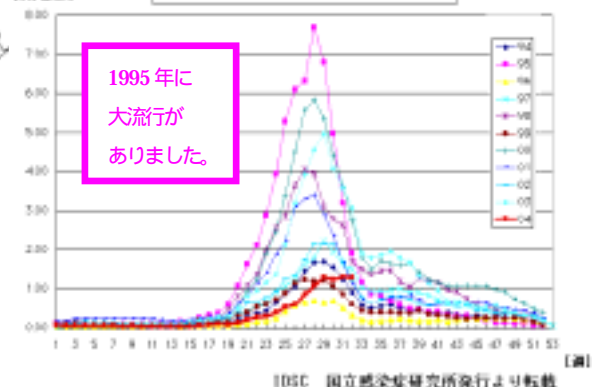
手足口病

(hand, foot and mouth disease : HFMD)

都道府県別手足口病患者からのEV71、CA16分離状況



全国の手足口病定点報告数(過去10年別)



- 病原体** エンテロウイルス群の主にコクサッキーウイルス A16 (CA16)、10型 (CA10) とエンテロウイルス 71型 (EV71) です。2003年はEV71, 2004年は現在までのところCA16が多く分離されています。
- 症状・経過** 潜伏期は3~5日です。口腔粘膜、手足などに2~3mmの水疱性発疹が出現します。肘、膝、臀部などにも出現することもあります。主として乳幼児に多く見られます。
- 感染経路** 飛沫感染、糞口感染、水疱内容物からの直接感染です。便中へのウイルスの排泄は長期間にわたり、症状消失後の患者も2~4週間にわたり感染源になることがあります。予防方法は、感染症全般に共通する**排泄物の取り扱いを衛生的に行い、手洗いを励行すること**です。
- 流行時期** 主に夏季ですが、**秋から冬にかけても発生が見られる**ことがあるため、今後も注意が必要です。